



茶畑の中のせん風機は、何のためにあるの

霜で、チャの葉に被害が出るのを防ぐ

茶畑には、10メートルおきくらいに高い棒や塔がたてられ、その上に、大型のせん風機が並んでいます。このせん風機は、いつも回っているわけではありません。

せん風機が活やくするのは、霜がおりそうな日だけです。霜にあうと、お茶の葉の被害が大きいため、霜よけは重要です。また、チャは、気候が温暖で、雨の多い土地で育つ植物です。寒さには弱く、マイナス15の温度が1時間以上続くと、かれてしまいます。

霜がおりるのは、どんなとき

風のない晴れた日の夜など、気温が2～3くらいまで下がると、昼間暖められた地面から熱が空気中に逃げ出して、地表の温度は0以下まで下がることがあります。すると、地面近くの空気が冷やされ、その中にふくまれていた水蒸気が、氷のつぶになって、地表近くの草の表面などについて、霜ができます。風の強い日は、霜がおりにくくなります。自然の風が、空気をかき混ぜているからです。

人工の風で、霜を防ぐ

そこで、せん風機で人工的に風を送り、茶畑の空気をかき混ぜ、地面付近に冷たい空気がたまらないようにして、霜がおりるのを防ぐ方法が考えられたのです。茶畑のせん風機は、10メートルもの高い所にあり、風は下向きに流れるようになっています。

茶畑だけでなく、果樹園にもこのようなせん風機があります。（監修・矢野 亮）

